

1 グループ研修

① - 1 「保幼小の架け橋プログラム」の理解推進と幼小接続の工夫

1 各園の現状と課題

- ・ 近隣の小学校と連携を図る中で相互理解を深め、こどもの学びをつなげる幼児教育と小学校教育との円滑な接続の向上について考えたい。

2 協議内容

(1) 小学校教育との円滑な接続について

- ・ 幼稚園と小学校がつながることができる具体的な活動を紹介し合った。
- ・ 幼小連携を円滑に進めるためには、気軽に行き来ができる関係づくりが大切である。園長自身が近隣の小学校と良好な関係を築き、つながりを深めていきたい。

(2) 浜松市版「つながる」カリキュラムの活用について

- ・ 「つながる」カリキュラム参考資料の理解を深め、小学校にも伝えたい。

3 次回の研修について

- ・ 1 学期の幼小連携（こども同士の交流や職員間の交流）について実践をまとめた資料を持ち寄り紹介する。

② - 1 つながりのある発達支援教育の推進

1 各園の現状と課題

- ・ 支援が必要なこどもの就学先を考える視点や、支援級・支援学校の目安がわからない。
- ・ 個別の支援計画を保護者に確認してもらうようにした。
- ・ 支援が必要なこどもについて、小学校や関係機関との連携について研修を深めた。

2 協議内容

(1) 支援の必要なこどもの入園と支援、就学先について、事例を基に話し合った。その中で、障害児相談支援事業所が核になる話も出された。

(2) 個別の支援計画の保護者への確認について、良かったことや心配な点について意見交換した。

3 次回の研修について

- (1) 支援の必要なこどもの対応について事例を基に話し合う。

②－２ つながりのある発達支援教育の推進

1 各園の現状と課題

- ・ 支援を要するこどもが増えている。その中でも、情緒面を課題に抱えているこどもへの支援が難しい状況にある。

2 協議内容

(1) こども理解について

- ・ 職員の見方・考え方を大事にして、全職員が共通理解を図ることが大切である。そのための時間は十分とれない現状だが、打合せ等も利用して短時間で的確な話し合いを心掛けたい。

(2) 発達支援の部屋について

- ・ 先行体験は、通常保育での困り感を軽減するサポートとなっている。ただし、発達支援の部屋の有無に関わらず、こどもの困り感に応じた適切な支援が大事である。
- ・ 発達支援教育に関する知識・技能の向上を深めるために、発達支援アドバイザーの指導・助言を仰いでいく。

3 次回の研修について

- ・ 小学校の就学に向けて、よりよい連携（保護者、小学校、他機関）の在り方について話し合う。
- ・ 1学期の実践を基に、課題を要するこどもの具体例を挙げて話し合う。

③－１ 安心・安全な園経営のための危機管理能力の向上

1 各園の現状と課題

- ・ 市内で物騒な事件やカモシカの出没など想定外の事案が続いたこと、梅雨や台風の時期を迎えたことで、多くの不安や課題がある。

2 協議内容

(1) 事前の危機管理について

- ・ 身近に見られる危険な動植物についての情報交換と、経験に基づいた具体的な危険性について話し合った。
- ・ 教職員の危機管理に対する認識について、どう指導するか今後の課題である。

(2) 個別の危機対応について

- ・ 危険な様々な野生動物、不審者への対応や、年々増えている気象災害や津波からの避難について、園の立地に応じた対応に不安や課題がある。

3 次回の研修について

- ・ 園の立地に応じて、危機管理マニュアルの肉付けを検討したい。
- ・ 各園の安全計画や保健計画を持ち寄り、比較検討する。
- ・ 大雨、猛暑への対策について話し合う。

③－２ 安心・安全な園経営のための危機管理能力の向上

1 各園の現状と課題

- ・ 園内における動画や写真撮影、外国籍の緊急連絡等個人情報の取り扱いについて
- ・ 不審者対応の取組について
- ・ 災害時や非常時における訓練や役割分担について
- ・ 熱中症や感染症に対する対応について

2 協議内容

- ・ 個人情報につながるものは、年度初めや行事案内ごとに園としての扱い方や対応を伝えていくことが必要ではないか。
- ・ 園舎の建て方や立地、地域や環境は園によって様々である。園独自で、いろいろな場面での不審者対応（役割分担等）を考えなくてはいけない。

3 次回の研修について

- ・ 不審者対策や熱中症について各園の取組を共有する。

④－１ 職員の育成と資質向上につながる園経営の在り方

1 各園の現状と課題

- ・ 様々な職員への対応、園長候補となる主任の育成、小規模園での主任・職員の育成、初任者の育成、事務仕事の分担の在り方

2 協議内容

(1) 主任の育成、職員の育成について

- ・ 小規模園化が進み、主任が担任を兼務する園での主任の育成には難しさがある。園長と主任の事務仕事のバランスを探りながら、主任の資質能力の向上を図る。
- ・ 園運営において、勤務管理、文書管理、会計に対応できることは必要なことである。事務サポートを利用しながらも、事務関係の知識・能力を主任が身に付けるとよい。
- ・ 週日案への記述を通して、職員の子どもを見取る力、指導力の向上を図る。

(2) 初任者の育成について

- ・ 園長、主任、初任者育成教諭の連携が必要である。役割分担をして初任者の育成に当たりたい。

3 次回の研修について

- ・ 協議のテーマをさらに絞って深めていく。

⑤ ー1 満3歳児保育の在り方

1 協議内容

(1) 「市立幼稚園中山間地域満3歳児受入の試行事業」について

- ・ 昨年度の会議の内容（事業の目的・背景）について確認した。

(2) 共通理解事項について

- ・ 教育課程、食事対応、生活づくり、服装、おむつ、園視察、プール遊び、スポーツ振興センターへの加入、出席簿、健診・検査について確認した。

(3) 満3歳児が入園した園の様子について

- ・ 5月から満3歳児が入園した園の様子を聞く。未就園児学級の経験の効果で母子分離もスムーズに進み園生活を楽しんでいる。転びやすかったり、リュックを背負うとバランスを崩したりするなどの実態から、安全管理に関する基本的事項を学んでいく必要がある。

2 次回の研修について

- ・ 事業の目的である「子育て環境の向上」を踏まえ、試行園の役割について協議していく。
- ・ 共通理解事項について事例検討し、共有していく。

⑥ー1 主体的・対話的で深い学びの実現

1 各園の現状と課題

- ・ 「主体的・対話的」はイメージがつくが、「深い学び」について、見方や考え方が分かりにくい。

2 協議内容

(1) 主体的・対話的で深い学びの目的について

- ・ 目的は、3つの柱の資質・能力を目指し、生きる力の育成を図ることである。そのための手段が、主体的・対話的で深い学びの実践と捉える。

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点について

- ・ 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領などの改善及び必要な方策等について（平成28年12月21日 中央教育審議会）の中に記載されている。見方や考え方については、幼稚園教育要領解説（P.26）を参考にする。

(3) 深い学びについて

- ・ 直接体験の中で、子供の中から「願い」や「問い」が生まれ、その実現や解決のためにこどもが試行錯誤する環境構成や援助を工夫することが大切なのではないか。

3 次回の研修について

- ・ 協議内容から自分の意識をどのように変えたり、職員へどのように伝え取り組んだりしたか情報交換をする。